

団体名	社会人落語やかん寄席実行委員会
事業名	社会人落語による地域活性化事業

目的・背景	事業の効果
<p>本事業は、社会人落語家によるアマチュア寄席の開催を通じて、笑いで活気溢れるコミュニティを形成し、地域の活性化に貢献することを目的としています。</p> <p>引きこもりがちになる高齢者が社会的な課題となる中、落語会の開催により高齢者が外出して社会交流のきっかけとなるよう努めます。高齢者にとっては、外出することで生活に張り生まれ、笑いによって気分も晴れるなどの効果も期待できます。地域の高齢化を食い止めることはできませんが、やかん寄席がお年寄りにとっての楽しみであり続けることで活力維持のサポートになればと考えます。</p> <p>また、落語の魅力には30～40代の子育て世代の方々も含めて親子で楽しめる側面もあることから、全世代楽しめる企画・提案を寄席のコンテンツに加えていきます。</p>	<p>① やかん寄席では、敷居の高いイメージの落語も分かりやすく柔軟な切り口で演出するため、若い世代にも訴求することができる。</p> <p>② 落語＝古典芸能に興味を示して来場するお年寄りが、30～40代の演者による若い発想が盛り込まれたやかん寄席の演芸に触れ、新しい感覚を得て視野を広げることができる。</p> <p>③ 高齢者と若者双方の来場により、寄席を通じて希薄になりつつある地域の繋がりを改めて見直し、世代を越えた連帯感の再生に繋げることができる。</p> <p>④ 無料で気軽な娯楽の創出を通じて、誰もが参加しやすく楽しめる場を地域に提供し、活力あるまちづくりに貢献できる。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>① 2018年度まで定期公演:4回+出張公演 5回だったものが、2019年度は定期公演3回(3月の1回は準備・予定でしたがコロナの影響で直前に中止)+出張公演10回に増やすことができた。特に出張公演では、こども文化センターから老人ホームまで幅広い世代を対象にした施設からオファーを得た。また、地域活性を目指す施設やイベントにも参加することができた。</p> <p>② 来場者割合は8割ほどが高齢者であり、溝ノ口周辺にとどまらず様々な会場で多くの方に足を運んでいただけたことで成果はあった。</p> <p>③ 前年に比べて、子供が多く参加するイベントに参加する機会があり、初めて落語を見て楽しかったという感想を得るなど、ささやかながら伝統文化に触れる機会を与えることができた。</p> <p>④ 徐々に親子連れが参加するイベントへの参加により、世代間の広がりが出てきている。</p>	<p>やかん寄席本公演では、リピーターの数が持続的に増加傾向にあり、毎回150名以上の集客を見込めるようになってきている。キャパシティとしては、2部構成を定着させたことから、200名以上の集客を目指して、さらに地域に根付いたPR活動を行っていく必要があります。</p> <p>そのためにも、やかん寄席本公演以外での公共施設やデイサービスなどへの積極的な参加を推し進め、認知度を上げて客層の拡大を図ります。</p> <p>高齢者の方々には比較的多く参加していただいておりますが、更なる飛躍には年齢層の低い方々へのアプローチが課題です。落語の面白さ・楽しさを積極的にアピールし、若者にもリピーターとなってもらえるように働きかけます。</p> <p>Twitter や facebook、Youtube などネットを駆使した運営など、若い人が反応しやすい集客方法に工夫を加えたPRツールを確立させ、継続的に取り組んでいきます。</p>



やかん寄席 in おふる荘(2020/2/2)



第2回ぶらり寄席(2019/12/15)



第10回やかん寄席(2019/8/18)

団体名	菜の花ダイニング
事業名	菜の花ダイニング

<p><b>目的・背景</b></p> <p>ライフスタイルの多様化に伴い、食事の仕方も千差万別であるが、こどもが一人で食事を摂る「孤食」や「こしょく」が社会問題となっている。当団体では、「こしょく」を少しでも減らすことを第一目的とする。食事はみんなと食べることで会話が生まれ、それによって育まれる情緒や、食事の様式・作法を覚える場でもあるという、成長過程の重要な基盤であることを認識してもらう。『温かい手作りの食事は美味しい』『会話をしながらの食事は楽しい』と感じてもらえる、こどもの健全育成が主たる目的である。</p> <p>又、地域の主に単身高齢者世帯や、孤立しがちな子育て世帯へ参加を呼び掛け、地域の多世代の人々との交流や情報交換の場を設ける事も副目的とし、地域包括ケアの一端を担うことも目的とする。*「こしょく」には、「孤食・個食・子食・粉食・固食・濃食」などがあげられる。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 高齢者の参加も約10%あり、毎月楽しみにしている。</li> <li>② 以前は親と一緒に来ていた小学生が兄弟姉妹での参加となり、安心できる場所であると、認識されると感じた。</li> <li>③ 川崎市の施策である「まちのひろば」にこども食堂にフォーカスしたイベントがあり、活動内容の画像を数枚提供することができ、注目を浴びている活動であると、再認識した。</li> <li>④ 毎回配布している、レシピと食のミニ知識は「家でも作った」「このお野菜には、こんな効果や種類があるのね」等と大好評である</li> </ol>																				
<p><b>実施結果</b></p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止の為、3月の開催はやむなく中止となり全11回の実施となった。</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">参加者数</td> <td>こども</td> <td>493名</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>おとな</td> <td>311名</td> <td>790名</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">内訳</td> <td>親子</td> <td>619名</td> <td>78%</td> </tr> <tr> <td>こどもだけ</td> <td>84名</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>高齢者</td> <td>69名</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>おとな</td> <td>18名</td> <td>2%</td> </tr> </table> <p>前年度も台風で11回開催であったが、参加者数は767名であり、約10%参加者が増えている。通算で約2000名の参加者があり、今後も継続して続けていきたいと強く願っている。</p>	参加者数	こども	493名	合計	おとな	311名	790名	内訳	親子	619名	78%	こどもだけ	84名	11%	高齢者	69名	9%	おとな	18名	2%	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 毎月第3水曜日 17:30～ プラザ橋での開催を継続</li> <li>② LINEの配信導入が効果をあげ、突然の中止連絡等が参加者へ、伝達できているので、今後も積極的に利用していきたい。</li> <li>③ HPの定期的な更新や参加者の思いがけない声掛けにより、寄附品の輪が広がっているため、積極的に取り入れていきたい。</li> <li>④ 参加者が増えていることは、大変嬉しい事であるが、受け入れ態勢も限界にきているので、これをどのように展開していくのが課題となっている。</li> </ol>
参加者数		こども	493名	合計																	
	おとな	311名	790名																		
内訳	親子	619名	78%																		
	こどもだけ	84名	11%																		
	高齢者	69名	9%																		
	おとな	18名	2%																		



2月のメニュー ロールキャベツ・マカロニサラダ



ロールキャベツ約50人分を煮込みます



食のミニ知識

団体名	コミュニティカフェ「ぶらっと！カフェ」
事業名	コミュニティカフェ「ぶらっと！カフェ」

目的・背景	事業の効果
<p>話し相手がおらず、家に閉じこもってしまいがちな高齢者や障がいのある方、子育て中の人、地域に知り合いがない退職者など、誰もが気軽に集まって、挽きたて淹れたてのコーヒーを飲みながら、おしゃべりを楽しめる場所にしたいという思いで、開設している。</p>	<p>開設から 5 年目に入ったが、毎年約100人 参加者が増加している。認知症が始まった人も 何人か参加があり、楽しみに通ってくれている。</p> <p>いつも出席してくれる地域包括支援センターのスタッフに、気軽にできる場所としての役目も担っているし、逆に心配な参加者の状況把握もできている。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>昨年度よりも、100人以上の参加者の増加、1 回あたり 5人の増加が見られた。</p> <p>また家にこもりがちといわれる男性の参加者が、約3割を占めることも特徴的で、新しい男性が参加しやすいカフェとなっている。趣味の盆栽を披露してくれる男性もいて、会話が弾んでいる。</p> <p>小学生の社会科見学の場として、また中高生のボランティア体験の場としても利用されるようになって、参加者もいきいきと話される様子がうかがえた。</p>	<p>販売価格の半値でコーヒー豆を提供してもらって、何とか運営が成り立っている状況は、参加人数の増加で改善はみられている。ただ 高齢者が多いので、できれば今年度のように行事保険に加入したいが、まだ現状の収入だけでは無理がある。</p> <p>また会館まで荷物を運んでくれる協力者も見つかり、おしゃべりボランティアも参加してくれているが、もう少しスタッフの人数が増えて、ゆとりある状態にしていく必要を感じている。</p>



小杉小学校4年生 社会科見学



ハンドマッサージボランティア活動とのコラボ



カフェ交流の風景

団体名	白山一丁目ちよつと支援隊
事業名	超高齢団地の“支え合い”事業

目的・背景	事業の効果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢化率が51%を超し、川崎市で最も高齢化が進んでいるとされる団地でコミュニティ活動を進め、介護保険等の公的サービスと併用するボランティア型生活支援活動を活発化させる。</li> <li>● さらなる高齢化に備え、住民相互の支えあいにより、最後まで地域で過ごせることをめざす。</li> <li>● そのために、住民の健康づくりに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ボランティアへの支援依頼件数は前年度に比べ減った(25件→6件)。原因は毎回のゴミ出し支援を頼まれていた住民が引っ越されたためである。支援内容の多様化にも臨機応変に対応できており、その対応状況をボランティア通信(全戸配布)で住民にPRし、支援してほしいことがあれば気軽に利用してほしい!と呼掛けている。住民の間に、何か困った時に支援してもらえという安心感が生じてきている。</li> <li>● 講演会への参加、サークル活動の活発化により、住民の横の繋がりが強まってきている。高齢者の引きこもり防止、フレイル予防にも寄与している。</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>ボランティア活動</u>: 今期6件(月極めゴミ出し3件、通常ゴミ出し1件、粗大ゴミ撤収1件、蛍光灯交換1件)。前年度: 25件</li> <li>● 「<u>ボランティア通信</u>」の発行: 4回発行。全戸に配布。</li> <li>● 「<u>さつき会</u>」: 食事を共にしながら誰かの話を聞き住民の交流を図る催し。8回開催。延べ参加人数153名。</li> <li>● <u>サークル活動</u>: 散歩、囲碁、麻雀は非常に活発で、これら3サークルへの延べ参加人数は、344名になった。 当初予定になかった「作品展」を開催し好評を博した。今年度新たに「さつきシネマクラブ」の活動も始まった。</li> <li>● 体力測定と講習会</li> <li>● 講演会と先進的取組み地の視察(各2回実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当街区には、管理組合(ハード面の管理)はあるが自治会(ソフト対応)が無い。ちよつと支援隊が自治会的な活動をやっている。両者が連携して初めて良好なコミュニティが形成される。管理組合の理事は年度毎に替わり、それに起因して、管理組合の支援隊に対する見方や対応の仕方が年度により変わるといった問題が起きている。本年度は支援隊にとって望ましくない方向に振れ、厳しい状況下で活動となった。今後、管理組合側にソフト面の充実化の必要性を訴え認識を深める活動を、外部講師の活用等も考えながら、より積極的に進めたい。</li> <li>・支援隊活動の更なる周知を図るため、さつき街区全世帯にPRチラシを配布する。</li> </ul>



さつき会(食事)



麻雀の会



作品展

団体名	ミューラボ(mu.Lab.)
事業名	歴史・自然・文化・環境をさぐる「用水と多摩川流域」

目的・背景	事業の効果
<p>地域の歴史・文化を尋ね、過去と現代の風景や風土を探ることによって、地域を形成してきた歴史と時代の風土が分かり、そこから、現代の川崎の都市形成に至った経緯を知る。</p> <p>地域を理解し、地域を愛する人々を増やし、地域の再生と活性化に貢献する。</p> <p>また、散策することにより、健康増進にもつなげる。</p>	<p>今回の事業は、3回の基礎講座と2回の体験教室で事前に歴史・文化・環境等について、研鑽を図る。次に、二ヶ領などの用水と多摩川流域を3コースに分け、実際に現地へ赴き、団体作成の資料や地図を見ながらガイドの解説を聞き、見学をする。そのことにより、歴史・文化的な掘り起しと現代との関係を浮かびあがらすことができる。また、地域の成り立ちを知る人々を増やし、より地域への親近感が生まれ、地域や市民相互の交流が深められる。加えて、地域の歴史・文化や自然環境の醸成や継承、また地域への活性化にもつながる。参加者個々の健康増進の一助となる。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>今回、天候不順とも重なり、前日・当日のキャンセルが多くあり、募集定員(20名)を下回るイベントが多かった。その中で、小学生等の家族連れ・夫婦から80代方まで幅広い世代参加や近隣地区の参加が見られた。</p> <p>講座や体験教室では、満足度100%が多く見られた。現地見学の参加者インタビューでは、平均6kmのコース(約3時間)は、歩くペースも良く、健康にちょうど良い。配布資料は詳しく素晴らしい。とてもわかり易いガイドを聴け楽しく散策できた。普段気づかない所や新しい発見があり勉強になった。もっと多くの人に参加して欲しいイベントだ。この散策で初めて出合った方同志で楽しく歓談している様子や参加者と地域の方たちが会話している様子なども散見でき、地域市民の相互交流の一助となっていた。</p>	<p>今回、昨年度と同様にチラシ制作や川崎市などの後援名取得などを速やかに行い、行政機関や関連施設へのチラシ配布を円滑に進めたが、募集人員を下回る結果となった。天候不順はともかく、体験教室は、車で来る参加者もあり、開催場所の利便性などを検討する必要がある。また、体験と概要解説を一体化した教室の開催やマイナーな文化を掘りこしていくなど、魅力ある企画を立案していきたい。同時に公益イベントにも参加し、団体PR広報活動や会員増にも力を注ぎたい。</p> <p>また、IT媒体を活用した組織内インフラ整備を図ると共に、財政基盤の安定化を図るために、収益事業(スピンオフ企画)を毎年継続できるようにしたい。他の団体と連携や協力を図るなどして、新たな企画も検討したい。</p>



基礎講座①



体験教室「紙漉き」



現地見学②中野島堰周辺

団体名	川崎の産業観光を支援する会
事業名	小学校の社会科見学に関わる事業

目的・背景	事業の効果
<p>小学校の授業の社会科見学会でバスで行きます。先生方からそのバス中で川崎の話をしてほしいとの相談があって始めました。</p> <p>当初一、二校だったが、年ごとに広まっていきました。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. バスからや見学先でかわさきの歴史や地理や産業のことなどを話すこと。</li> <li>2. 会員の活動の場を広げること。</li> <li>3. その他 3年生のテーマは「かわさき市内めぐり」 5年生は「ものづくりと環境」なので、おもにこれらのテーマに沿って話します。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. バスの中では説明もしますが、バスに弱い子もいるので、できるだけ会話型やクイズ形式にします。また現地では発見したものを探検ノートに書きます。質問を受けたり探したり、学びの手伝いをします。</li> <li>2. 街歩きでは誘導補助をします。列の安全確保に大いに感謝されています</li> <li>3. 学年の先生方と事前打合せをします。 順路やトイレのポイントなど具体的な相談のできる役立ててもらっています。(ほぼ一週間前)</li> <li>4. 市外出身の先生方には、川崎を知る機会になっているそうです。今年は梶ヶ谷小が加わりました。これらは先生方の異動や先生友達の口コミによるようです。</li> <li>5. 会員にとっては、経験や知識提供の場になります。勉強の励みになる、との感想がありました。</li> </ol>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今年度の実施校は 10 校でした。うち 3 年生 9 回、5 年生 3 回 合計 12 回を行いました。昨年より 1 回増えました。</li> <li>2. 同日に 2 校が重なった日がありました。マリエンに臨時応援者が待機して、小グループ対応を試しました。</li> <li>3. ガイド員は延べ 11 名でした。その他の予備員が 10 名弱いますが、実働は未定。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● できれば市内全区の小学校に対応したい。未達は川崎区、多摩区。</li> <li>● ガイド員数の補強。常に力量向上に努めること。現地や関連などの下見、意見交換が良い。</li> <li>● 活動資金の見込みをつけること。最低必要なのは学校往復の交通費。</li> <li>● 児童-学校-支援する会と三者の効果バランスが良いと思います。とはいえ規模を大きくすると難しい問題も出てくるので急がないで継続したい。</li> </ul>



区ごとの緑にちがいがあかな？



かわさきマリエンの展望室で



ここまで詰めて(銀柳街の天井開閉で)

団体名	ワークルールと若者を支援する会
事業名	ワークルールを知る・考える授業づくり

目的・背景	事業の効果
<p>時間外労働の上限が2019年4月から罰則付きで法律に規定されたが、健康や命の問題として捉えてほしい。副業や兼業をすすめて労災保険の改正は置き去り、今は事故の起きた勤務先の賃金分しか補償されない。多様な働き方にかくされた請負や業務委託の問題点等々、課題は多い。</p> <p>行政も労働教育の必要性を訴えているが、生徒や学生のみでなく親世代の方なども含め広い層へ必要性を伝え、つながりをつくり、実際に相談ができる、あるいは相談先につなげるといった役割を果し、働く者の権利が尊重され、誰もが働きやすい社会創りにつなげたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ミニ出前講座は参加人数は少ないが一番対象としたい学生の参加があり、労働法の基本や社会保障を知ることができてよかったと感想をいただいた。</li> <li>● 他団体との連携は重要。</li> <li>● 高校の教員から高校生のアルバイトの実態から課題を知り、生徒と共に考える3日間に渡る授業実践報告を受け高校生のアルバイトの実態を垣間見ることができた。</li> <li>● 学習支援員から生活・学習支援事業の概要と様子、子どもの様や支援の実際、貧困家庭の子どもたちの実態と支援者の内容を知る良い機会となった。</li> <li>● 参加者から始めて聞く内容、重要だと意見あり。</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>① ミニ出前ワークルール講座                  みたまちもりカフェにてミニ出前講座開催                  (学生7名、一般3名)                  3回開催の予定が1回のみで開催                  ワークルールや社会保障について説明を行い、昨年購入したライフリテラシーゲームも活用</p> <p>② ワークショップ (参加人数 10名)                  テーマ:今の時代だからこそ必要とされるキャリア教育ってなんですか?パート2 講師:法制大学教授 小見川考一郎                  テーマ:働くってどういうこと、アルバイトや働く上での基本的なルールを学ぶ講師:県立金沢総合高校教員                  テーマ:東京多摩地域における子どもの貧困対策事業のようす 講師:学習支援員</p>	<p>年度当初の「労働教育の必要性を伝える役割に加え実際に相談ができる、あるいは相談先につなげるといった役割を果たす」は困難、でも続けいく必要がある。</p> <p>今、働き方改革はすでに実施されたが、健康と命に重きをおいた政策にはなっていないと感じる。「様々な働き方」の名を借りて労働者保護は置き去りにされている現状がある。</p> <p>学校で出前講座を行っても経済的な保障がなく、会の自立は課題のままである。</p> <p>川崎市内という条件を満たすことが難しいため、助成金の申請は行わないが、今後も継続していく</p>



団体名	丘の上カフェ実行委員会
事業名	丘の上カフェ(認知症カフェ)事業

目的・背景	事業の効果
<p>誰が認知症になっても住み慣れた地域で、長く暮らしていけるようにする。</p> <p>そのために、認知症に関する知識・理解を含めたり、知り合いを増やしたりして助け合えるような環境をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 認知症の当事者は行く場所ができ、地域の方と親しくなれる。</li> <li>● 家族や認知症当事者は参加している専門家(地域包括、ケアマネ、見守り支援センターの職員)に気軽に相談できるし、早期発見につながる。</li> <li>● 家族の方は、おしゃべりを通して気分転換もはかれる</li> <li>● 地域の方は認知症についての理解も深まり、誰が認知症になっても安心して暮らせるまちづくりに資する。</li> <li>● 地域包括支援センターや見守り支援センターの宣伝もできるとともに、一般的な注意事項(オレオレ詐欺や熱中症など)も発信できる。</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のコミュニティカフェで月1回、区役所で年2回丘の上カフェを実施。毎回20人前後の参加があり、新たに参加する人も加わっている。参加者どうしが親しくなり、おしゃべりが増えている。認知症予防への関心が多い。</li> <li>・認知症の方は全体の1割程度で人数としては少ないが、お茶を運んだりの参加もしている。(認知症当事者のご家族の方も1割程度)</li> <li>・カフェの場で地域包括の職員へ相談する方が、増えている。</li> <li>・参加者の認知症への理解が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域に定着してきているので、基本的には今までの方針で続けていく。</li> <li>● 参加している専門家に相談しやすい形を工夫する。</li> <li>● 認知症の方が参加しやすいカフェを工夫する→学習の時間を減らしたり、楽しい催しをふやす。</li> <li>● 地域の方、地域の事業所の方を対象とした認知症サポーター養成講座を開く。同時にサポーターの方のカフェへの参加を誘っていく</li> <li>● スタッフは積極的に他のカフェと情報交換したり、研修に参加しカフェの質の向上を目指す。</li> </ul>



施設の人から話を聞く



健康診断をして相談会



介護ロボットの紹介

団体名	不登校を考える親の会 川崎の会
事業名	不登校を中心とした子育て相談支援事業

目的・背景	事業の効果
<p>今、学校は子どもたちにとって生きづらい所になっている。それは年々不登校が増え続けていることでも分かる。これは川崎でも同じである。そして、不登校をどうしたらよいかと学校や病院に相談するけど、それでも学校へ行けない子どもはたくさんいる。そんな中で毎月川崎の会を開いている。毎回のよう新しい参加者がいるということからも、同じ体験をして悩んでいる親が交流できる親の会の存在が必要なことは明らかである。そして交流していく中で親が大丈夫と元気になることで子どもも前を向くようになるという話を聞くと、もっと親の会の在ることをたくさんの親に知らせていくことが必要だと考える。</p>	<p>川崎の会では毎月相談会を開催できた。講演会、学習会のある月も相談会は別の日程をとり、開催した。不登校で悩んでいることをお互いに話し合うことで大丈夫と元気、安心を得るためには、自分の悩みをじっくり聞いてもらうことが不可欠である。人数が10人を過ぎるときは、2つのグループ別れてじっくり相談できるように運営をして、皆さんに来てよかったと思ってもらえるようにしている。1回でも参加した親には次回の案内を郵送するようにしている。今年になって120名に増えている。また新しい活動として当事者が集まれる居場所として「木々のうた」の活動を始めた。毎回の参加が親と子を合わせ8~10名くらいある。また農業体験も取り入れているいろいろな活動を通してつながりが広がってきている。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>毎月1回相談会をする。年12回することができた。1回の参加者の平均は15名。のべ180名になる。                      4月29日 風見穂香コンサート・トークの会 37名                      8月4日 広木克行先生講演会 53名                      9月29日 松山康彦氏 講演会 48名                      2月2日 柳川夫妻の話 20名                      新しく月1回 当事者の集まり「木々のうた」                      年間で8回聞く 親と当事者合わせて8~9名</p>	<p>川崎の会では今年度、事務スタッフを募集したところ力になればと7名の方がエントリーしてくれた。今、案内の発送事務をしている。                      それから他地区で活動している団体との連携ができて川崎不登校・ひきこもり親の会ネットワークとして連合して活動できるようになった。WEBサイトを立ち上げることになった。川崎の会の課題としては案内やお知らせを現在郵送しているが、それをどのようにIT化していくかが大きな課題になっている。また、予算財政の確保をどうすすめるか。そのための年間会員制をどのように進めていくかということがある。そのためにできるだけ多くの方にスタッフになってもらい運営体制を確かなものにしていく必要がある。</p>



団体名	Vege&ArtFes 実行委員会
事業名	ママ起業家と地域をつなぐイベント【Vege&ArtFes】&街の情報発信冊子【かわさきママのわ】

目的・背景	事業の効果
<p>川崎市に住むママ起業家が中心に主催。</p> <p>仕事や育児で手一杯で、街と繋がることが少ないというママの声をきっかけに立ち上げたイベントは「地元を知る、興味が湧く、より地元の良さを知って、地元をもっと好きになってほしい」というコンセプトを持つ。</p> <p>交通利便の良さから、県外での消費活動や行楽活動が増えていくが、住む街の魅力が伝われば地域活性になると考えている。起業を目指すママやすでにママ起業家として活躍したい方に出店体験の場を提供し、起業支援を行っている。</p> <p>2017年にVege&amp;ArtFes 発で「かわさきママのわ」という、川崎7区で活動する繋がりを立ち上げ、2020年3月に情報発信冊子「かわママ pick up!」のvol.2を作成。</p>	<p>(Vege&amp;ArtFes イベント開催について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・起業したての女性にとって、お客様と繋がることができる仕事のスタートアップの場となり、初出店のサポートをする。</li> <li>・地元野菜や地域で活躍する女性を知る場でありながら、それを体験する場となる。</li> <li>・地域に住むママが地元で活躍するママ起業家出店を知ることで、新しい趣味や起業のきっかけとなる場となる。</li> </ul> <p>(情報発信冊子「かわママ pick up!」について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子をきっかけに、注目を集めて、メディアなど通して団体さんの活動を知ってもらう</li> <li>・団体さん同士がつながり、自分の区以外の活動も知ることができる</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>(Vege&amp;ArtFes イベント出店してよかったこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このイベントで初めて出店される方もいました。</li> <li>・お客さまが少ない時間に、出店者が力を合わせてお客様へ広報する出店者同士の団結もありました</li> <li>・「新しいお客様と出会い、やってみたかったと嬉しい言葉をもらいました。」「もっとお客様が使いやすい形にバージョンアップしたいと思う」</li> </ul> <p>(情報発信冊子「かわママ pick up!」について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この冊子をきっかけに、団体が繋がり、新しい活動の話もある。</li> <li>・冊子に新しい団体を8つ載せ、5つの新しい施設を追加。</li> <li>・各区での活動紹介として、起業見本にもなっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会館2階への人の誘導が難しい</li> <li>・事前予約をもっと頑張りたい!</li> <li>・ディスプレイをもっと分かりやすくする</li> </ul> <p>【今後の改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントを通して、今後もお客様とつながっていけるようにするために、何か考えたい</li> <li>・今回作った冊子を、いろんな方に渡して、より見やすく・使いやすく改善したい</li> <li>・今後、活動の支援ができるような窓口を増やしていきたい</li> </ul>



出店者と多くのご協力スタッフ



女性の出店で親子が楽しむ



撮影と冊子作りの打合せ

団体名	NPO 法人ダンスラボラトリー
事業名	ダンスアシスタント養成教室(障がい者スポーツボランティア講座)

目的・背景	事業の効果
<p>川崎市内には障がい児者がスポーツを楽しめる環境が少なく、単発のイベントとしてダンスを楽しむことができても定期的に継続することが難しい状況がある。継続してダンスを行えるようダンスアシスタント育成教室を開催し、定期的なダンス提供ができるようにする。継続して定期的に教室や講座を開催することで新たなコミュニティーができ、今後さらに多くの人たちに事業に参加してもらい、言葉のいらないダンスを通して地域の新しいネットワークを形成しバリアフリー社会を構築していきたい。</p>	<p>本人たちが様々な場所に出ることで、障がい者の社会参加へと繋げていきたい。</p> <p>活動は、日常的に行われ、その成果発表として、より高いレベルの舞台を実現し障がい児者の活動の場を広げていきたい。ボランティア講座は、本年度初めて参加する方と、昨年からの引き続きで参加する方が半々くらいで昨年からの参加者の多くが初級、中級、上級の認定を受けていたことから、次年度からは再開し多くの人々の理解を深めたい。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>アシスタントを育成する中で、健常者 5 人障がい者 5 人のスペシャルユニットを作り、より高いレベルの舞台を実現した。</p> <p>その中から、講師の推薦で健常者ではあるが「アシスタント」が生まれ、現在の活動でサポートを行っている。</p>	<p>今後、団体の活動をするにあたってアシスタント、アシスタント候補は、大きな役割を担うと共に小学生を中心とした世代から、憧れられる存在となるよう支えていきたい。</p>



レイベル1



ドローン撮影



ダンスダンススタカツ

団体名	ママプラス Largo
事業名	ママプラス Largo 第2回定期演奏会

目的・背景	事業の効果
<p>子供の誕生と健やかな生育は、日本の社会全体において将来の希望である。未就学児でも、またその親や家族でも気兼ね無く吹奏楽を楽しんでもらえるような演奏会を開催し、小さい子連れの行動範囲を広げていく。そして、演奏会を通して音楽や音楽以外の情報に触れ子育てに役立てることができ、家庭での子供の教育のヒントに成り得る。また、ほとんどが小さい子供を持つメンバーで構成されているママプラス Largo のメンバーの演奏会を鑑賞することで勇気づけられ、子育ての不安解消や緩和の効果も期待できる。</p> <p>吹奏楽の形態を活かし、楽器紹介をしたり演奏していくことで音楽や楽器への理解を深め、鑑賞のひとつきを有意義なものにしていく。</p>	<p>申込に対し多少(1割程度)のキャンセルがあったものの、多くの親子連れ・ご家族にご来場いただきご好評をいただくことが出来ました。お客様に記入いただいたアンケートの集計(別紙)を添付いたします。</p> <p>&lt;一部抜粋&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供が飽きないように工夫されてて、ゆっくり聴けました。すばらしい演奏でした。</li> <li>・昨年と比べて、音の厚みが出てとても良くなっていると思います！子供たちのハンドベル、どうぞの木のお話、そりすべりの演奏、楽しかったです。また来年も来たいです。</li> <li>・楽器紹介の演出が楽しかった。幅広い年代の人たちが楽しめる演奏会でとても良かったと思います。</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>◆当日観客動員数…328名(膝上幼児含まず)</p> <p>中原市民館多目的ホール観客席375に対し328席が埋まる 席埋率87.4%</p> <p>&lt;申込状況&gt;申込数(ネット)…379名</p> <p>&lt;キャンセル状況&gt; 事前キャンセル…18名 当日来場無し…34名 キャンセル率…13.7%</p> <p>◆演奏会アンケート回収…51枚</p> <p>◆演奏会プログラム冊数…250部</p> <p>プログラム配布数…196部 余り…54部</p> <p>◆演奏会告知チラシ印刷数…800枚(予備174枚付)</p> <p>余り無し</p>	<p>◇2018年度事業報告書に記載した課題『web 申込みシステムの不具合』については、不具合の原因が判明し対策を講じることが出来たため、今回の申込み時に混乱は見られなかった。</p> <p>◇鑑賞申込み期限について、お客様より『申込み締め切りが早すぎる』とのご意見が今回もありました。次回以降は申込みをせずにご入場頂けるよう、収容人数の多い会場での開催を検討中です。</p> <p>◇『マット席におおきな荷物を置いている人がいて、座るスペースが窮屈だった』『映像スクリーンが小さく見づらかった』など、お客様アンケートにご意見を頂いたので、次回に反映出来るよう改善していきます。</p>



ラルゴキッズの演奏で開演



物語を使っでの演出で楽器紹介



多くのお客様にお越しいただきました

団体名	NPO法人くるみー来未
事業名	～知的・発達障害のある子とパパ・ママのための～ みんなでわくわく自然体験『たのしい、おいしい、きもちいい！』

目的・背景	事業の効果
<p>知的・発達障害のある人は、社会の理解不足からいじめ、不登校等の状態に陥りやすい。特に思春期では家族以外の仲間とのつながりが大切だが、社会性やコミュニケーションの面で難しいことが多く、親子とも地域で孤立しがちである。</p> <p>これらの社会課題を解決するため、知的・発達障害のある人と家族を対象に、野外で自然とふれあう体験ができるデイキャンプを行う。「キャンプは日常から離れて他の参加者や支援者とふれあい、学校や家庭とは違う様々な体験を通して人間的な成長や学びが得られる」という研究結果がある。この分野で先進的な取り組みをしている横浜市の団体からの全面的なバックアップを受け、本事業を昨年に続いて実施する。</p>	<p>参加者からのアンケート結果はポジティブであった。一般向けイベントは障害のある子は参加できない場合が多い上、障害のある子の子育て負担が大きい家族の力だけで行うのはハードルが高く、そこに本事業のニーズがある。</p> <p>今回も専門家の力を借りながら、「とっておき」の体験ができる魅力的なイベントとなった。「同じ釜のご飯を食べる」という感覚で、障害のある子のいる家族同士でのピア・サポートにつながっている。今年度も本活動を3回実施することができ、多くの家族・支援者間のつながりをつくることのできたのは大きな成果であった。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>9月は先行先/内容変更を迫られたが、計画通り3回のイベントを実施することができた。</p> <p>1回目:2019/7/6~7 キャンプ@黒川野外活動センター 参加人数 28名(当事者 10, 家族 10, 支援者 8)</p> <p>2回目:2019/9/29@高尾山登山 参加人数 30名(当事者 13, 家族 13, 支援者 6)</p> <p>3回目:2020/1/12 おもちつき@黒川野外活動センター 参加人数: 27名(当事者 9、家族 9、支援者 9)</p> <p>〔参加者の声 (n=34) 〕</p> <p>大変満足:30 まあ満足:4 ふつう:0 やや不満:0 とても不満:0</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達で作りあげることに意義があったと思います。</li> <li>・子供達の様子をみて親御さんは同じ苦勞をしているんだなと共感。</li> </ul>	<p>本事業を昨年度に続いて実施したこと、またスタッフ研修的な内容を多く盛り込んだことで、団体内に人材・ノウハウ・備品等の蓄積ができてきた。協力団体との連携不足という課題も今年度はクリアし、当日の運営はスムーズであった。</p> <p>本活動の社会的意義は大きく、団体内の人材等のリソースも整ってきたこと、今後も施設との協働ができる見通しであることから、来年度は本助成金には申請せず独自事業として継続実施する見通しである。</p>



7/6~7 はじめてのおとまりキャンプ



9/29 みんなでたのしく高尾山ハイキング



1/12 そ〜れみんなでおもちつきだよ！